

令和4年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書

綾川町における多文化共生のまちづくり

代表 田中 初流乃（経済学科 2年生）

（1）目的と概要

香川県内に暮らす外国人住民の数は年々増加しており、特に綾川町では技能実習生の割合が多く、町内の外国人住民の3分の2以上となっている。また、アジア圏からの技能実習生が多く、外国人だからといって英語表記が理解できる人ばかりではない。そのため、外国人住民と日本人住民とが助け合い、ともに安心して暮らせるまちづくりが求められている。しかし、技能実習生の在住期間が原則5年以内となっていることから、日本の文化に触れたり日本人と交流したりすることのないまま自国に戻ってしまう技能実習生も多い。そして、一部の批判的なニュースに影響を受けて、日本人側が交流したことのない外国人住民に対して良い印象を持っていないこともある。

この事業では、綾川町や綾川町教育委員会、香川県国際課、香川県国際交流協会の協力のもと、綾川町に住む地域住民と外国人住民が、お互いに顔の見える関係を築く交流の場を創出することを目的として、綾川町の小学生と外国人住民がともに参加できるイベントを企画・実施した。

（2）実施期間

令和4年7月1日～令和5年3月31日

（3）成果の内容

1) このプロジェクトの具体的な成果

a) 滝宮周辺フォトログイニング (モニターツアー)

実施日：令和5年1月28日

場 所：綾川町滝宮地区

対 象：高校生、大学生、技能実習生

7月に企画していたイベントの申込数が少なかったことを受け、公募ではなく、つながりのある方に声をかけてモニターツアーという形で実施した。

実施後に行ったアンケートでは、綾川町に初めて来た方から「いい場所」とのお声をいただき、綾川町の魅力を再発見するという目的に合った活動ができたのではないかと考える。また、次回に向けての改善点も見つけることができた。来年度、より多くの地域の方に参加していただけるように、Withの認知度を上げる必要性を感じた。





b) インドネシアの絵本読み聞かせ

実施日：令和5年2月15日

場所：綾川町立陶小学校

対象：5年生2クラス

インドネシアの国や文化について楽しく学び、外国人住民を身近に感じられるきっかけになることを目的として実施した。

読み聞かせに使用した絵本の物語は、日本の「鶴の恩返し」と似ているため、児童は興味深く耳を傾けていた。クイズでは、インドネシアの様々なことについて、楽しく学ぶことができた。じゃんけん大会は想像以上に盛り上がり、児童が積極的に活動に取り組むことができていた。

実施後に行ったアンケートでは「インドネシアに行ってみたいと思った」という回答もあり、このイベントを通して外国に興味を持ってもらうことができたと考えられる。



c) たこあげ大会

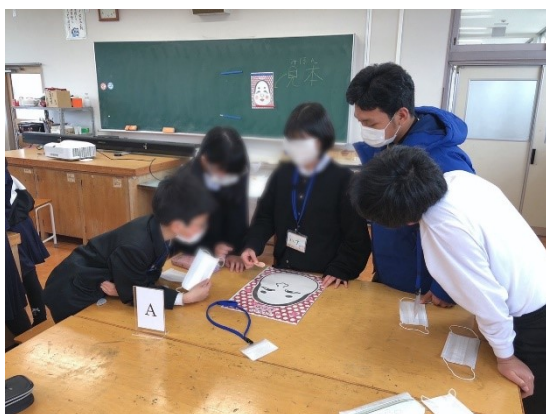
実施日：令和5年2月24日

場所：綾川町立陶小学校

対象：4年生2クラス

外国や日本の文化の違いについて触れながら、グループに分かれて交流することによって、お互いに顔の見える関係を築くきっかけになることを目的として実施した。外国や日本のたこあげ文化について、クイズを交えながら楽しく学ぶことができた。自己紹介やたこに絵を描く時間に、グループごとに積極的に交流しており、充実した時間になった。

悪天候により外でたこあげをすることはできなかったが、代替として行った福笑いやじゃんけんはとても盛り上がっていた。



以上の3つのイベントにより、外国人住民と小学生とが交流する場を提供することや、そのための準備をすることができた。また、小学校でイベントを行ったことで、多くの人に本プロジェクトの存在や活動について知ってもらうことができ、今後の活動に良い影響を与えられると考えている。

2) このプロジェクトが大学や地域社会の活性化に対してもたらした影響あるいは効果

綾川町の現状や現代の多様な社会において、子どもの頃から多文化に触れ、お互いに顔の見える関係を築くことは、より良いまちづくりのために必要である。本事業では、そのような場を提供することでお互いに楽しく交流することができたため、綾川町の多文化共生に向けて良い働きかけができたのではないかと考える。

本事業に関わる学生は、イベントの企画・実行を主体的に行ったことで、実践力を養うことができた。また、綾川町や多文化共生への理解が深められたとともに、まちづくりという点で地域に貢献することができた。

(4) プロジェクトから学んだこと

・多文化共生について

実際に外国の方と交流する機会を重ねたことで、やさしい日本語を用いてコミュニケーションを取ることに慣れてきた。本事業外で多文化共生についてのセミナーに参加する機会があり、そこで学んだことをイベントの企画や交流中に活かすことができた。しかし、児童と外国人住民との交流を促進するような声掛けや、双方に分かりやすいように説明することについては力不足な面もあり、児童の積極性に劣らないように自ら積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が重要だと感じた。

・イベントの運営について

7月に予定していたたこあげ大会は、新型コロナウイルス感染拡大により延期となり、当日は雨天により急遽代替のゲームを行うなど、感染状況や天候により、当初の計画通りに進めることが難しかった。準備からイベントまでに余裕がないことが多く、様々な事態を想定することができていなかったことも原因の一つである。また、連携している企業や協力してくださる機関、ゲストの方などに迷惑を掛けないためにも、余裕を持って準備に取り掛かるべきだと思った。そのため、今後は今まで以上に早期に立案し何度も打ち合わせを重ねたいと考えている。

(5) 実施メンバー

学部・学年	氏名	学部・学年	氏名
経済学部 2年	田中 初流乃	農学部 2年	中谷 愛香
経済学部 2年	戸村 彩香	経済学部 1年	桑島 岳斗
教育学部 2年	岡田 楓	創造工学部 1年	比嘉 大輔
教育学部 2年	佃 萌花	創造工学部 1年	山地 脩人
教育学部 2年	小倉 莉子	農学部 1年	畑 碧莉
教育学部 2年	細谷 真子	法学部 1年	北尾 あかり